

中川根ふる里通信

= 第46号 =

編集・発行・モアラブ中川根
 連絡先 〒428-03
 静岡県榛原郡中川根町上巻尾 859-6
 中川根ふる里通信係
 TEL.0547-56-0015
 郵便振替口座 00870-4-81556



十月十日、徳山神社祭典奉納
 徳山神樂がきらびやかに舞われました。

『ねんりんピック、97山形』

弓道部門 団体戦にて

静岡県が 優勝

監督は 八木芳郎さん 高郷



山形県米沢市営体育館で、九月二十一、二十二日と開催された『ねんりんピック、97山形』の弓道の部に、静岡県代表として監督兼選手として参加した、八木芳郎さんの率いる静岡県チームが見事団体優勝に輝きました。

この大会には全国から五十九チームが出場し、トーナメント戦で勝ち上がり、見事頂点に立ったことになりました。試合数は四試合、準決勝福井戦では六対六の同点となり、一本競射で四対一で勝ち上るといふ熱戦もあったそうです。

八木さんは八十五歳、弓道を始めたのは昭和十二年



自宅にて、すっしり重い優勝トロフィーと金メダルを胸にかけた八木さん。

六十年の弓道歴を持ち、本業の針灸治療業の傍ら、弓道を通じ、心身修養に励まれ、平成三年五月には、全日本弓道連盟から教士七段を認許され、町内指導はもとより、榛原郡、静岡県の弓道界の指導もされております。

八木さんは、中川根村初代村長八木又左衛門の孫にあたり、唯一人現存されている方です。「週二回、県立川根高校の講師として、生徒らに弓道の手ほどき、をするのが何よりの楽しみ」といい、近く全国高体連から感謝状が贈られるということでした。

『ねんりんピック』とは、厚生省と財団法人・長寿社会開発センターが、都道府県の協力を得て、年一回、高齢者も他の世代にある者も、共に社会に参加し、互いに助け合う心豊かな「参加型の長寿社会」を築いて行くことと始められたものです。参加資格は六十歳より、八木さんのもとへ開催地の米沢市の中学生より、こんは、便りが届きました。……プレゼントは、S・Lのテレホンカードとか、……

私の町は上杉の城下町として、上杉文化の史跡等がたくさんあります。

大会では、日頃の練習の成果を十分に発揮して下さい。

応援しています。

お逢いするのを楽しみにしています。

米沢市立第6中学校1年

佐藤 雄一郎

ねんりんピックも無事終了したことをうれしく思っています。大会の結果はどうでしたか？

はかきといっしょにいたいたお土産は、本当にうれしかったです。

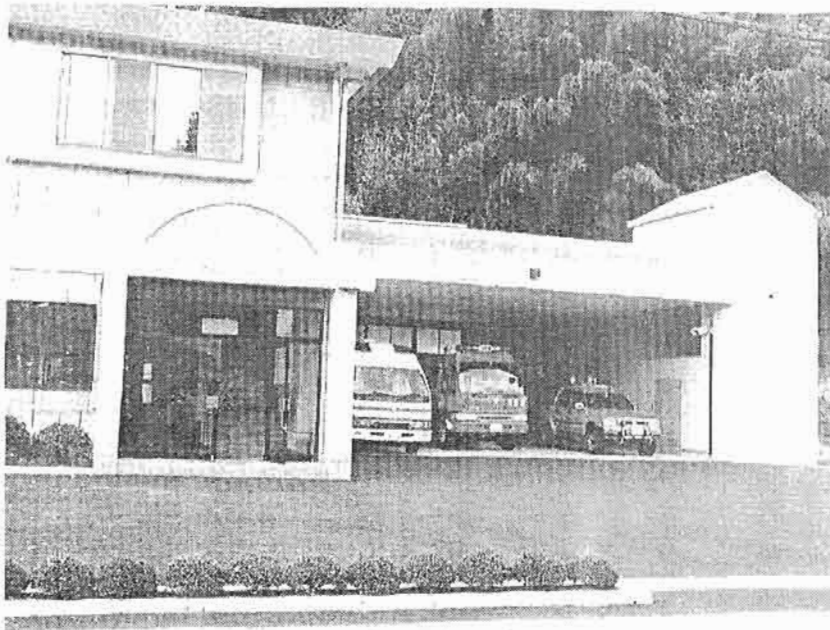
米沢では、天候が悪く、寒い日が続いています。ほくはこのごろ体の調子がよくありませんが、

どうぞお体には気を付けて下さい。

本当にありがとうございました。

米沢市 塩井町塩野 229-1

佐藤 雄一郎



河原崎 隆夫 所長

島田消防署 川根北分遣所 が 藤川に開設されました。

「川根地区に常設消防施設を」の
願いが叶いました。

十月一日、島田消防署川根北分遣所
が開設し、当日より、常設消防の業
務が開始されました。
この分遣所は、主に川根三町の中

中川松竹藤川に設置された、川根北分遣所。
高規格救急車の配備で、救命率のアップが期待できます。
病院までの搬送中、衛星電話で医師の指示を受けながら
救命処置を行うということです。



北部を管轄する消防拠点ですが、平成十年度に川
根南分遣所が開設されるまでの間は一部の業務を
除いて、三町全体を管轄とします。

北分遣所は、河原崎所長以下十八名を配属し、水槽
付消防ポンプ自動車、高規格救急車、査察車各一台も
もって災害出動します。

勤務は交替制で、一当務当たりの勤務者は六名前後
となりますので、消防団や地域住民の皆様と手を携え
て、この広大な管轄エリアをカバーし、「災害のない明
るいまちづくり」に努めたいと思います。

また、救急車が到着するまでの応急処置に関する
講習会も随時実施する計画でありますので、地域や事
業所の皆様の積極的な参加を期待しています。

広報なかわね NO 三一四号より

川根三町はこれまで常備消防がなく、火災は消防団
救急は患者搬送車を役場に置き、対処して来ましたが、
これからは消防業務にプロの方が当たって下さるの
で、地域住民といたしましては、「安心して住らせる
町」になったことを喜んでおります。

当地域は、総合病院が一番近い所で、島田市民病院と
遠く、急病、事故の時の対応に常に不安を持っておりま
した。火災防止、健康管理に、地域住民が心がけるこ
とはもちろんですが、「もしもの時に助けて下さる
消防署の皆様と協力して、明るい町づくりをしなければ
いけない」思います。救急業務は、開設されてから毎日の
ように続けられ、多い日には、二、三回の出動が成されて
いるようです。

都会の友達へ

細田洋司



川根路も錦繡の季節が訪れてまいりました。しばらくごぶさた致しましたが、その後ますますお元氣のことと存じあげます。

中川根町でも、この夏から町営の乗合バスが走るようになりました。走る区間は、藤川区の小井平から役場前や下泉駅前などを經由して久野脇区まで、一日五往復です。

料金は乗車区間の長短に関係なく、一乗車について中学生以上百円、小学生以下が五十円です。

マイカー時代になったとはいうものの、車を運転できないお年寄りの方や、学生などには公共的な乗物が必要になる場合がありますので、これは、とてもありがたいことだと思っております。

ところでこの夏、県外から徳山地区へ移住されてきた方たちとお話合いをする機会がありました。いろいろなお話が話題になりましたので、その時感じたことなども含めてお知らせ致します。

以下はその時の話の要点です。

1. まず、この地区（徳山区のこと）を歩いてみると、殆どの家が、隣家や道路との間に仕切りの塀（ブロッコ塀や板塀など）を設けてないこと、また、仕切りを設けている家でも樹木などの生け垣が主体で、外部に対しては全く無防備であるというても

よく、とても開放的であることに驚いた。と同時に心の安らぐ思いがした。とのこと。（これは徳山区だけに限らず町内全般に言えると思います。次ぎの2項も同様）

2. つぎに、騒音の無い地帯。そして余分な照明の無い地帯がここに残っていることに感動した。とのこと。（とくに、夜の九時以降の静寂の世界は、深夜まで騒音の絶えない都会にいた者にとっては、別天地のようなものである、とのことでした。）

このことについては、以前にも観光客の方から、夜が静かすぎて怖いような気がする、と言われることがあります。

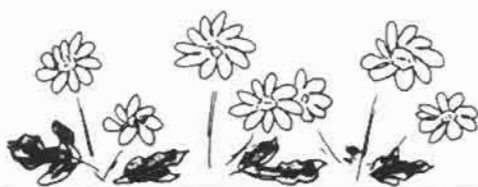
3. 中川根町はなんにも無い町だというのが、澄んだ空気がきれいな水、そして緑がいっぱいある……、まわりの市や町でいろいろできるようだから、却ってなんにも無いというのが、ベッドタウンにふさわしい町として、トレードマークになるのではないかと……。

などが主なことでした。

1. については、ここに住んでいる私達にとって、ごく当り前のようなことで、侵入しようと思えば玄関に限らず、裏口からでも縁側からでも全く自由で、住まいのガードに関しては、まさに無防備であります。

これはお互いに暗黙の信頼関係があるからだといえましょう。

2. についても、これまた昔から生活環境



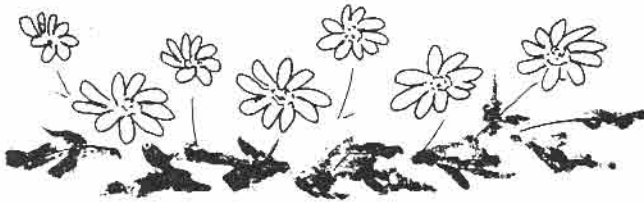
があまり変わっていないためである。ということであり、悪く言えば進歩が無い、ということでもありますが、都会からきた方たちからは驚きの眼で見られたようです。第三者からの視角を通して、己れの住む「地域」が持っている「良さ」というものを再発見させられた感がありました。

3. は、ほめられているのか、皮肉られているのか、たいへん判断に苦しみましたが、三割くらいホメ言葉なのだろうと勝手な解釈をしながら承った次第でした。

時代の変遷とともに、人びとの思いというものも、さまざまに変わってくるものですが、この地へ移住されてきた方々と話し合った中で感じたことは、ひとが最終的に求めるものは、山や川などの自然に囲まれた環境の中で、警戒心を持つ必要の無い隣人たちと付き合いたく、暮らしていきたい、ということではないだろうか、ということでした。

これと同時に、現実生活を続けていくためには、今ひとつ重要な課題として、就労の場の有無や、所得レベルの問題等々、経済的な面からの検討が必要ですが、このことについては、今回は素通りすることにしました。改めてお便りいたします。

川根地区の人びとは、「下(しも)へ出よう」「下へ行く」「下で生活しよう」という願望は、ずっと抱いてきたし、今もその想いは変わっていないのではないかと(私自身をふりかえってみてもそのように)思います。



(しもという語句は大井川の上流部に位置する私達の地域に対比して、下流部に位置する地域の総称であり、転じて都市部のことでもあります。)

その願望通り、この町から「下」へ行き、刻苦勉励されて名を成された方々も数多くおられるのでありますが、生まれてからずっとこの町で暮らしてきた者たちにとっても、このことは消しがたい想いとして、常に心に残っていることなのです。

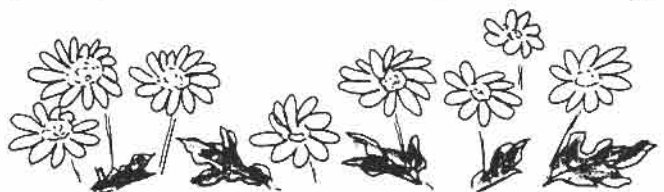
敢えて難しい言い方をするならば、これは「南進の思想」なのだと思います。(もう少し厳密に言うなら、果都静岡や東京都など首都圏を目指す、ということから「東進の思想」というべきかもしれませんが)

文面が長くなりますので少し端折って結論から申しあげますと、今の時代はこの「南進の思想」に加えて「北進の思想」(回帰の思想というべきかも…)を併せ持つべき時期にさしかかっているのではないだろうか、ということでもあります。

都会で活躍されているあなたに、この考えを押し付ける気持ちは毛頭ありませんが、たまたま県外からこの地へ移住された方々とお話しをする機会を得た中で、やや大袈裟な言い方をするなら、私の頭の中で価値観の転位が少し起きたような気が致しましたので、とりあえずお知らせしたいと思い認めただけです。

ご返信頂ければまことに幸甚に存じます

平成九年 九月



お祭りの思い出

|| 鹿ん「舞」のこと ||

私には、お祭りの思い出として、藤川と徳山のお祭りが記憶としてありますが、藤川のお祭りは、幼少の頃で且つ短い在住でしたので、ここでは記憶も薄れて来ていますので、割愛します。

「徳山浅間神社祭典を語らずして、徳山出身と云うのには忍びない」と、自問自答をしながら、自分にはお祭りとは、どんな係わりがあったのだろうか、を振り返って見ました。

ご承知の通り、八月十五日旧盆の当日は、徳山村落では、お祭りの行事の要めとして、「鹿ん「舞」」が行われます。



こゝも 浅間神社境内で、
徳山の盆踊りが8月15日 奉納されました。
これは、13日、総練習のシーンです。

神仏混淆思想とか、鹿ん「舞」の由来については、ここでは論外のことですが、国の無形民俗文化財として、大変有名であり、徳山出身の誰れもが誇りに思っておられることではないでしょうか。

ひと昔前までは、鹿ん「舞」は、その年に満二十歳を迎える成人男子が担当することが義務づけられていました。勿論、私達の時代もそうでした。祭典の一ヶ月位前から練習を始める必要上、どうしても同年輩の在住者で構成したので、徐々に若者の流出が激しくなるにつれ、二十歳の男子だけでは賄い切れなくなっていたようです。

幸い、私の時代は、徳山在住者が二十名近くあり、花村元次君(区長、町議歴任)を中心として、結束を誇り、立派にその役目を果しました。私は当時大学入試を失敗し、二浪中でしたので、協調性がなく、ご迷惑ばかりお掛けした記憶がありますが、「ひよっとこ」という鹿ん「舞」の一員にさせていただき、懐しく当時が思い出されます。私には男兄弟が三人おりますが、三人共、「ひよっとこ」でしたので、どうにか面目を保つことが出来ました。

残念乍ら、その後、若者の町外流出が加速し、由緒ある鹿ん「舞」を存続させるための窮余の策として、中学生へ移行したものと思えますが、お祭り全体のスケールが小さくなった感は否めませんが、これも仕方ない事だと思えます。

各地で、夏祭りが盛んなご時世ですが、自分がお祭りで燃焼仕切れなかつたことを後悔しながら思いますが、若い世代が、お祭りに積極的に参加する

ことは、連帯意識の高揚と、若い血潮の発散のために有意義であることは言うまでもないと思えます。余談で恐縮ですが、先日私は浜松の姪の結婚式に出席し、感動を受けましたことは、新郎の同僚達が、余興で浜松祭りの名物「練り」を披露され、宴を盛上げたことです。浜松人の「やらまいか魂」はこの激しく踊る「練り」と無関係ではない、と意見する人さえおられます。

又、これは笑い話ですが、私の子供が幼い頃、鹿ん舞を観て覚えた舞いを、オハヤシを口づさみながら飛び跳ねたのを、たまたま同じ幼稚園にお勤めの藤川出身の宮野俊明先生（徳中時代同級生で、この春退職された宮野俊明元静岡長田南中校長の妹さん）がご覧になり、大変興味深げだったそうです。

近年父母が亡くなり、実家へ帰る機会は少い、減っておりますが、浅間神社の祭典だけは、長年宮司をされたお伯父さんが、今尚ご健在でいらっしゃることや、自ら参加させていたいただいた事が、真夏の一時の清涼剤となつて懐しく思い出されております。

静岡市在住 西田 享司



国指定無形文化財とありましてお祭りの当日は大変なにかわいとなりますので、徳山区の皆さんや写真をとる方は、十三日の総練習の日に集まって来ます。

日時. 11月23日 (勤労感謝の日)

午前10時 高源寺(清水市飯田)を出発.
雨天の場合. 11月24日(振替休日)に順延.

目的地 梶原山山頂 (標高280m)

梶原山とは. 鎌倉幕府の武将. 梶原景時父子が割腹した山に因って付けられ. 今春. 静清両市によって公園として整備され. 静. 清両市の麓から徒歩で約1時間という手軽な山頂です. 山頂からは静清両市が一望できます.

当日は清水市側から登り. 静岡市瀬名へ下りる経路をとります.

費用. 写真代その他諸費用として.

1人 1,000円 徴集させていただきます.

持物及び服装. お弁当. 飲み物. お菓子など.
服装は軽装で. 靴も運動靴など.

申込み方法. 予め参加人数確認のため. 下記へ

11月16日. 迄にご連絡下さい. 「ハカキ」でも結構です.
〒425. 清水市押切792-18

梶山 俊雄

TEL・FAX. 0543-46-0575.

交通手段・集合場所・解散について

解散. 午後2時頃の子走.

※ 静岡市瀬名の麓.
バス停. JA城北農協前から. JR. 草薙駅行及び. 静岡駅行バスが頻繁に出ています

集合場所迄の交通手段.

※ 10時出発ですから. 10分前にはお集り下さい.

静岡駅方面から. ② 清水行. バス.

駅前発 8:47 → 9:20 高橋花の木着.
9:12 → 9:45

清水駅方面から 梅ヶ谷行バス. 徒歩10分 高源寺

駅前発 9:20 → 9:30 高橋. 高源寺着
9:40 → 9:50



麓への交通等略図

皆様の親睦を兼ね. この度. 静岡. 清水の市境に位置する梶原山への秋の散策を計画しました. 静清地区の方は勿論. 志太地区. その他の地区の方. どのみても結構です. 多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます.
尚当日は. 小沢節子も参加させていただきます.

ご案内『今秋“静清地区”でウォークを企画』

西井田一郎さん逝く 徳山

徳山古典芸能保存会理事長であられ、徳山の盆踊り、徳山神楽の伝承に尽くされた西井さんが急逝されました。ことは誠に残念なことと言葉がありません。

西井さんご自身が徳山の盆踊りや神楽の出演者であったことは言うまでもありませんが、後継者への指導者として、無くてはならない人でした。ある方が申すには、「西井さんは神祿にお仕えできるほど熱心な方だから、定年退職後は神主さんになっていたんだろう。職場でも、徳山の古典芸能でも、責任感の強い誠実な人だったと思います。」



昨年奉納された、徳山神楽、西井さんの大刀の舞い。

こんな話をお聞きしました。「山の畑や椎茸など、猿が食べて困ると言うのが、猿おとしの音より、山住さんのおすがた(山住神社のお札)を四隅に立てた方が効果があるのに……」
私は西井さんの言ったこと、信じています。もうあちらの世界で神祿のお仕事をきつと、なさっていらっしやるでしょう。

川根地域も、里山の森林形態は、杉、桧、樅、松の常緑針葉樹林が圧倒的に多いので、右写真に見られる様な、檜の木、倒木更新など、照葉樹林帯に属しながら、めったに見られるものではないと、興味深く見ました。



倒れた木の上に、1、2、3、4、5、等間隔に行儀よく並んで生えている。そして、倒木の先端は、もうほとんど幹が空になった老木が、天に向かって立っていた。

倒木更新 奈良市万葉植物園にて

山犬段付近の国有林の天然林でも、ブナなどの大木が一生を終えて、倒れ、

苔におおわれ、やがて朽ちて、その上に同種の若木が宿っているのをよく見かけます。そのほか、一列に、等間隔に並んだ若木を見つけることが出来ます。これが倒木更新で、生命を受けた樹木なのだなと、思いました。並んだ若木もやがて、強い木、弱い木が出来て、大木に育つか、否かは自然環境の条件によるでしょうが、人工的には造ることが出来ない、不思議な力を感じました。

東京のかたすみから (19)
テレビのはじめから終りまで
こわかった二人

渡邊 實夫



今も、ときどき思い出す人が二人ある。スタジオや中継の仕事で「こわい人」として言い伝えられた美空ひばりと作曲家黛敏郎である。一般に、役者・歌手・タレント・芸能人・評論家・司会者・キャスターなど、テレビに出演して活躍した人については、それぞれ「うまい」と思ったし、親しさを覚えることもあったが、いちいち記憶に残っているわけではない。

しかし、この二人のことは忘れられない。美空ひばりの仕事るときは、必ず「センセイ」と呼べ、気を付けろ。怒ると怖いぞ、とか、黛敏郎は厳しいぞ、モタモタするな、きちっとやれ、と聞かされた。

最初に耳にした時は、どんな具合に怖いのか、どういう意味でそんなことを言うのか、よく分からなかった。もっと有名な偉い役者や司会者が一杯いるのになあ——とも思った。

もう五ヶ月も前になるが、私は四月十日の夕刊を見て驚いた。そのすぐ前の週の「題名

のない音楽会」で、司会をしていた黛敏郎が死亡記事欄に出ているではないか。何と先回は、入院中の病院を抜け出している出演であったことを、その時初めて知った。彼は私と同年代、奥さんは元松竹の映画女優・桂木洋子で、同じ昭和五年で一か月遅れて生れた私は、中学生の頃、大のファンであった。梅島下の大井公会堂で、時々上映される映画をよく見に行った。そんなこともあってか、私はなんとなく、黛夫妻を身近かに感じていた。

彼の司会する「題名のない音楽会」は、昭和三十九年、東京オリンピック開催の年にスタートして以来、放送回数千五百回を越え、三十三年に及ぶ長寿番組となった。テレビ朝日プロデューサー磯村健二氏によると、「その才能とさわやかな弁舌で、それまでのテレビの常識を越えた番組を制作した。そして浪花節からベーターベンまで、を合言葉に、あらゆるジャンルの音楽に取り組み、大胆な挑戦もおこなわれた。

また、彼には「だから」がタブラーで、手抜きがなかった。よくテレビだから、時間的制約があるから、映像が中心だから、後で編集できるから、カメラの台数に制限があるから、などのいろいろな「だから」の演出が多い中、彼には一切なく、それが黛敏郎に対する信頼感を増し、音楽に対する愛情・情熱が自然発生していた。と述懐している。

毎回送られてくる入場券には、彼がモットーとした「あなたは音楽が嫌いですか？ 退屈ですか？ 難しいですか？ 音楽なんか無くなったって人生は成立する」と考えますか？ もしあなたがそう思っているなら



美空ひばりさん

音楽芸術より
キネマ旬報より



黛敏郎氏

題名のない音楽会

音楽の楽しさの新しい発見——公開番組入場整理券

パロディ版三大テノール
ベートーヴェンから浪花節

とき 9月5日(金) 18時30分 開場 19時00分 開演

ところ 渋谷公会堂

出演 司会、指揮・小松一彦 演奏・東京交響楽団

ゲスト 小林亜星、野坂昭如、桜井 順、他(予定)

題名のない音楽会
の放送は毎週日曜
日の朝9時からです

あなたは音楽が嫌いですか？
退屈ですか？むずかしいですか？
音楽なんかなくなつて、人生は
成立すると思いますか？
もしあなたがそう思っているなら
あなたはこの番組を見る資格があります。
「題名のない音楽会」はそうした人たちに
捧げる番組です。

満員の際は入場を
お断りします。

ご注意
前日16時より座席指定券と別換えます。
一枚二名まで有効。開演はおよそ15分前に入場は、録音のさまたげとなりま
すのでご注意ください。———
—種別品

10 テレビ朝日 JOEX-TV

出光
提供・出光興産

入場券コピー。左、裏面。出演、司会 永六輔 今年4月までは 黛 敏郎 でした。

あなたは、この番組を見る資格があります。と言ふくたりは、さすがだなあ、と表現のうまさを感じた。

右翼思想の持ち主である彼と、放送の公共性に基づく公平の原則を旨とする放送局とは、仕事中、真正面から対立することが多々あった。また、プロデューサーやディレクターの中には海外ロケ先で黛氏と激論し、興奮のあまり、ホテルの窓ガラスを頭で割ったものもでる始末だったとも聞く。普通プロデューサーは絶対的な権限を持っているので、出演者はどんなことでも、それに従うものとしていている。

ところが、黛は、演出をふくめ、カメラ、オーディオ、照明、美術なども完全に掌握し、番組全体を取り仕切っていたのである。私は彼が近くにきて、カメラ調整中の様子を見ていられると、何か言われそうで、ドキドキして落ちつかなくなつた。音楽と言ふものを良く理解し、理論的に分かり易く解説し、かつ冷徹なまでの制作態度が周囲の者を恐れさせたのでは無いだろうか。

彼の場合は、「単なる司会者ではない。言論の自由を持った一個人である」と言う明解な論理から、人には生意気だとか、わかままとか、思われる態度をとつたものであろう。この番組にテレビ朝日で携わつた約

三十人に近い担当プロデューサーやディレクターは、あの黛さんにいろいろ怒られ喧嘩をしたものだ。懐かしそうに話してくれた。

そして仕事については「鬼の黛」も、ひとたび番組を離れると、単なる食いしんぼうオジサンに変貌し、人間味あふれる優しい人柄が伺えたとのことである。

六本木のある天気の良い日の午後、「題名のない音楽会反対・黛やめろ」続いて「右翼黛・帝国主義粉砕」の連呼、「題名のない音楽会」の放送内容に対する抗議デモがあったことを思い出す。

彼は憲法改正・天皇制問題については一家言もっており、特に、建国記念日や憲法記念日からの内容に及んだ時のビデオは問題も多く、クレームがつき、お蔵入りしている放送されない番組が何本になつていゝたろうか。しっかりした思想の持ち主でなければ、人の心を動かす番組を作ることが出来ないことも確かだろう。

美空ひばりは十二歳でデビュー、圧倒的歌唱のうまさで大歌手・大スターとなった。無口で人一倍内向的な彼女は大変な親思いであり、妹弟思いであった。スタジオオ

まで母親が付いてきて、母親が承知しないことはすべて「ノー」と言う事であった。ある時は、われわれ裏方を恐れさせ、先生、先生と言わしめ、緊張の中で仕事をさせた。私などはどうしても必要なことがあれば、恐る恐る「先生すみませんが……」と言いう以外、一切言葉は掛けられなかった。そして五十二歳の若さで、平成元年六月二十四日に亡くなった。

しかしこれは全くのある一面で、彼女と親交のあったテレビ朝日の元プロデューサー中島睦夫氏は、次のように話している。

ひばりさんは寸法の大きい、芸の広い方で、彼女の胸を借りて仕事をさせて頂くことが、私の唯一の勉強方法であり、収穫も大きかった。お嬢さん（ひばり）と仕事をやらせて頂く時は、胸がときめき、卑劣しくてはしゃいだものだ。ひばりさんは、相手の意見を良く聞き、情熱をもって一から五十と練り上げた番組という土俵の中で仕事をした方である。

又カメラマンの江原淳一さんによれば、子供の頃からスターとして育ったひばりさんは、生れながらの天才でありながらも大変な努力もしていた。

庶民とは違い、われわれの生活の中から判断できないほど、奥の深い芸の技をもっており、そんな意味からは俗世間からはすれたところがあつたかもしれない。又、彼女がスターでいられたのは、おふくろさんの存在によるものが大きいとも思う、と言うことである。



いずれも私は彼等の醸し出す雰囲気から、或る種の緊張と、それぞれ違った意味ではあるが、威圧を感じたものだ。この二人の共通点は、怒って争められると、代わりをやる人がいないと言う、類いまれな才能の持ち主達であった、ことである。

これから、またまたと言う時に、惜しい二人を失った。懐かしい出演者が、だんだんあの世にゆくと、私のテレビ局生活時代もはるか昔のことのように思えてくる。

付記：……黛さん逝去後は友人だった永六輔氏が代行していたが、昨日九月三日の新聞発表によると、今後は「新・題名のない音楽会」として武田鉄矢氏の司会で、表い新たに再出発することになった。そうだ。

参考資料：日本経済新聞

一九九七年九月四日 記



ふるさと夜話

安政の大地震と川根

原田耕作



今から百四十三年前の安政の大地震に、大井川沿岸地帯はどんな状態であったか、いろいろしうべてみた。

大正五年に榛原郡役所で刊行した榛原郡誌によると、その中の金谷町誌稿には次の様に書かれている。(文語体の昔の文章を読み易く書いてみた。)

嘉永七年(一八五四)寅年十一月四日朝五ツ時(現午前十時)稀な大地震が起きた。突然の事故に入々は我先にと、とび出す者あり。子供を抱き、または手を引き、上を下へと混乱言葉にのべがたし、厭死(厭死)者も出た。土地は亀裂して、泥水吹き出し、折々地揺れ鳴動、時々刻々人々の泣き叫ぶ声さながら、地獄も斯くやと思われ、物すごきこと、言葉に述べがたし。

崩れた家は、多く瓦屋根又は二階家にして、杉皮屋根は格別の痛みも無かった。しかし、そのまゝ居住できる家は殆ど無かった。瓦屋根の家は建ってはいても大修繕しなれば住めなかつた。

震動回数は五十四度、翌日も小震は絶えなかつた。(江戸にては、翌年安政二年十月五日、更に大きな地震がしたと記述してある。)

以上は榛原郡誌に書かれた金谷町の状態であるが、藤枝市史の安政大地震を詠むと、大正十二年九月一日の関東大震災に匹敵する大地震が、東海道・東山道(もとの七道の一つ、滋賀県から中部地方の山間部、関東地方の北部を経て奥羽地方に至る地域)・南海道(同じく七道の一つ、和歌山県、淡路島と四国地方を指した)にわたって起きた。翌五日には伊勢湾から九州東部にかけて大地震が起きた。共に稀有の大地震で、各地に大惨害をあたえた。安政元年の地震では、藤枝では、即死三十人に及んだ、とある。

大地震は嘉永七年十一月四日に起きたが、この月の二十七日に安政に改元(年号が変わる)されたので、安政の地震と呼ぶことになったと言う。

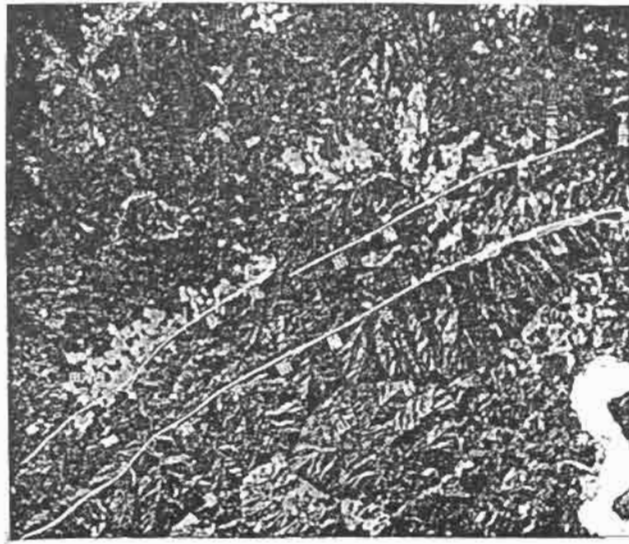
この大地震に依る川根地方の状態はどんなであつたらうか。私か若い頃聞いた古老達の話に依ると、川根地方は、災害らしい災害は無かつた、という、とらしい。

しかし、家山村では七日間も竹藪に寝泊りした人達があつたと、田村保寿先生の著書『萬華山三光寺と町の伝説』に書かれてあるから怖ろしい思いをした人達が川根地方にも随分在った、ことと思う。

しかし、其の後になつて、誰言ううとなく、川根地方は、地盤が固いから、地震に大丈夫との説が流れる

ようになり、住民に何等の不安全感もなかつた。ところが、最近、小さい地震だつたが





瀬沢、下長尾付近の断層線航空写真
浅井治平氏著「大井川とその周辺」

震源地が川根町内と報せられた。(地震計設置場所
は家山らしいが、震源地は笹間山中らしい)
意外な思いをした人達が多かつたと思う。

また数日前十月半ばに地震があつて川根町が震度
三と報せられた。川根方面の震度について、発表され
た例は以前無かつたから、いささか驚いた。

川根は地層が固いから地震が起きても大丈夫とい
う説は全くあやしくなつてきた。ふるさと通信三十六号
にも発表された浅井治平氏著「大井川とその周辺」
に依ると、私共の住んでいる地下には、下長尾断層、
瀬沢断層、久野脇断層、川根町に家山断層、また
気田川方面から大井川へ伸びる気田川断層、川上断
層等々断層だらけである。

昔から竹藪は地震に強いと言われ、先人の智慧

は崩れ易い山

地には竹を植

えよ、と訓えた。

しかし太平洋

戦争後の生活の

変化は竹の需

要が減り、燃料

としての雑木林

の価値が無く

なつた。従つて

竹藪と雑木林

はほとんど伐

られて、杉松が

植えられた。

鳥獣たちが生きるための草木の存在
も考へることなく、人間だけ生きれ
ば良い」という世の中になつて
今日に至つた。

之地には崩れ易い所と地震に比

較的強い所とがある。中川根の久野脇

と川根町の葛藪の間、「よこぞうれ

と呼ばれる崩壊で有名な大井川に面した
山地がある。

「よこぞうれ」とは如何なる意味で名付けたか、

詳細は判らない。しかし、それは崖の別称である。

「よこぞうれ」は呼び易く、「よこぞれ」を少し引き伸

したに過ぎないと思うが、「よこ」の意味は判らない。

「よこがれ」「よこごう」「よこさわ」等、横の字の付く

土地や沢など近辺あちこちにあるが、意味判らない。

「がれ」は井川の「田代がれ」に近い所では下長尾

梅高間の「よこがれ」「よこがれ」は昔は崖であつたと

いうが、その面影は今は全く無い。

「なぎ」は有名な畑なぎ、赤なぎ、近い所で、無双

嶺の本城なぎ。

「ぞれ」では大ぞれ小ぞれという所がある。

「くすれ」では富士山の「大沢くすれ」、静岡、長野

の果境「青くすれ峠」、静岡市梅ヶ島の「大谷くす

れ」近い所では今は集落となつた「崩野」等があ

る。



富山の配置売薬業水野大黒堂は、天保年間から売薬にたずさわっていると言いが、現在一年一回訪れる店主の祖父に当る人が、二十三歳の頃、安政の地震に川根で遭ったという。所は「よこぞうれ」。

嘉永七年十一月四日午前八時頃、前夜の宿泊地、葛菴村の宿を出て、「よこぞうれ山」の中腹の道を久野脇へ向って歩いていている時、突如として山がなだれ落ちた、という。道もろとも薬の行李を背負ったまま、河原までなだれ落ちたが、不思議にも幸にも怪我がなかった。怪我はなかったが、おどろきの余り、直ぐには立てなかったと言う。幸い、岩石のない山だったから良かったが、岩石と一緒に落ちた場合、おじいさんの命は無かっただろうと、大黒堂が話してくれたことがある。



安政の地震について、私が興味深く聞いたものは、た一つ、この話くらいなものであるが、本城山麓の村に住んだ今は古い古老から聞いた話として、本城山の蔵屋敷跡と言われた所が、安政の地震に依って、すっかり崩れ落ちたという言い

写真
葛菴地区遠望と、又野脇から連なる稜線、よこぞうれ？

伝えがあるとのことだった。いつ起きてもし不思議でないと言われた東海大地震、かれこれ二十年を経た。断層だらけの上に住んでいる私共は、充分な用意の下で運命を天に任せなければならぬであろうと思う。

余録

ふるさと夜話 第十九話終り

十月二十一日午後七時五十分ごろ、県中部地方で小さな揺れが観測されました。県中部の川根町付近を震源地とし、マグニチュードは四・四、震度二の軽震だったのだが、これに強い関心を示したのは、気象庁・地震防災対策強化地域判定会の溝上恵会長（東大地震研究名誉教授）は、「東海大地震の第一段階である可能性が強い」と緊急警告するのだ。

「今回の地震は、プレート境界域で起きた地震です。フィリピン海プレートが本州のユーラシアプレートの下にすべり込み、その境界域にはストレスがたまってくる。そして、ここが東海大地震の予想震源域なのです。そういうプレート境界域で起きている地震だけに、病理検査と同じで、ほんなに小さくてもカンなのか、正常細胞なのか、判断する必要があります。昨年十月以来、この境界域周辺では、六回も地震が起こっているんですよ」

- その六回の地震の内訳は、(マグニチュード=M)
- ① 96年10月5日 震源地 川根町 M 4.3 10% 1/2 揺れ
 - ② 97年3月16日 " 愛知県東部 M 5.6
 - ③ " 5月24日 " 遠州灘 M 5.3

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 7共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方初めてふる里通信をご覧になれる方には郵便振替用紙を同封致しますから引き続きご購読をお願いします。

年間予約 600円(150円×4回)のご送金をおすすめします。誠に恐縮ですが50号より、1部 200円とさせていただきます。よろしくご購読申し上げます。

購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先・及

発行責任者 〒428-0313 → 〒428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

小 沢 節 子

TEL. 0547-56-0015



④ 97年9月26日、震源地 御前崎 M4.0
 ⑤ " 10月11日 " " M4.9
 ⑥ " 10月21日 " " 川根町 M4.4

溝上名誉教授は、これら一連の地震が東海大地震の予兆であるというのだ。週刊現代より

原田さんが寄稿して下さった安政の地震(嘉永)は予想される東海大地震の一代前の地震であると言われています。川根町震源地は北緯35度、東経138度10分、奇しくも、久野脇、横せうれと、同緯線上にあります。

地球規模の自然界の展開に、二十年、五十年のすれは四十六億年から見れば、わずかの一瞬かも知れないが、その日への心がまえは、持って行かなければならないと



思います。私達は頭をつかうことに精力を斜けすぎ、本能は低下の一途をたどっているのだから。

十月に入って、晴天が続き、川の水もへってまいりました。そろそろ雨がほしいと、誰もが思っていることではない。やはり、季節のめぐりが、一ヶ月ほど早くなっているのでしょうか。早めに春が来て、台風も六、七月にきて、そして、冬特有の乾燥期に入ったのでしょうか。こころは奥山の紅葉、黄葉もあまり美しくありません。柿は、あま柿もしぶ柿もいたる所に実って山里の風景に、秋を演出してくれています。

カラス達も、豊作にひと安心、ゆっくり実ってから、食べようか、と思案しているようです。

今日(十月)初旬、中川根町の人材育成事業で、スイス・オーストリアの農山村状況の視察に参加させていただきました。ました。チロル地方は川根地域と似たところでした。次回号では、あらうらの様子もご紹介したいと思います。

今回「シリーズ」大井川と「方言」が載せられませんが、こちらも次回号より、載せさせていただきます。

す。年末までには、四十七号が、発行できるよう、頑張ります。

皆様の「意見」「感想」お待ちしております。

おります。では、次回号まで。